

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年5月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900559		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 玉里の里	ユニット名	なのはな
所在地	〒311-3433 茨城県小美玉市高崎1824-500		
自己評価作成日	平成25年1月8日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0873900559-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年2月5日	評価確定日	平成25年5月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>私どもの施設は、茨城県小美玉市高崎1824番地500に存し、目印としては石岡市高浜方面、白雲荘の近隣に位置しております。平成15年12月に開所し高齢者グループホーム 3ユニット27名、知的障害グループホーム 1ユニット7名、総数34名の利用定員となっております。利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め家庭的な雰囲気の中で、1. 人権の尊重 2. 個別のケア 3. 地域の一員として暮らすこととの基本理念のもと個々の日常生活が営まれるよう支援に取り組んでおります。又、関連施設に医療法人があり協力病院として優先的に医療相談が受けられる体制となっております。当事業所隣接地には肥育牛の牧場が存在し、かつ紫峰「筑波山」も眺められる緑豊かな環境下にあり地域に選ばれるグループホームを目指して気軽に立ち寄れる施設にして行きたいと考えております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は広い敷地を有しており、玄関は施錠せず利用者が敷地内を自由に散歩ができるよう支援している。</p> <p>利用者が何時でも買い物ができるように玄関ロビーに飲料水の自動販売機を置き、今迄と同じ様な暮らしができるよう支援している。</p> <p>職員は笑顔で利用者に接し、理念に基づき利用者の個々の尊厳を守り、利用者の思いを大切にした支援を実践している。</p> <p>利用者の希望による外食は法人のワゴン車やリフト車を利用し、車いす使用の利用者も含め、全員で行けるよう配慮している。</p> <p>事業所は2階建てでエレベーターを設置しているが、災害時を考慮して車いす使用の利用者は1階で生活している。</p> <p>運営母体の系列に協力医療機関がある事も利用者や家族等の安心につながっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と共に、その人らしく暮らせるよう独自の理念があり、朝礼にて唱和共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関と各ユニットの居間に掲示している。 職員は毎朝の朝礼時で理念を唱和するとともに、職員会議で理念を確認し合い、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加できるような行事等には、積極的に参加している。	事業所は自治会に加入している。 利用者は職員と一緒に地域の公民館で開催される短歌やカラオケの発表会の鑑賞に出かけているほか、町内の夏祭りや地域の運動会の見物に出かけている。 月1回芸能ボランティアが来訪している。 近隣住民が事業所の公衆電話やトイレを借りて立ち寄ることがあるほか、近隣住民から米のお裾分けを頂いたり、積雪の多い時には重機を持ち込み、事業所の敷地の雪かきをしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に力になれることや、相談できる体制があることを周知している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告などを行い、意見を頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は市職員や区長2名、民生委員2名、施設長、管理者3名で2ヶ月に1回開催しているが、家族等の参加を得るまでには至っていない。 会議では利用者の生活の様子や利用状況、行事などを報告するほか、資料を基に県内の感染症の発症状況や感染経路を説明し、予防策を話し合っ委員にも注意を促している。 民生委員から「近隣に住む一人暮らしの高齢者を施設に入所させたいが本人の了解が得られない」との話が出たり、災害時に炊き出しを行う場所の情報を得ており、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	家族等に送付している事業所便りに運営推進会議の日程を記載し、家族等に運営推進会議への参加を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な時は連絡を取り、相談・情報交換を行っている。	市担当者が運営推進会議に参加しているほか、施設長は要介護更新認定申請などの手続きの際に、市担当者に事業所の空き情報を報告したり、利用者の困りごとを相談し、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。職員全員マニュアルを熟読している。	緊急やむを得ない場合以外は身体拘束を行わないことを契約書に明記している。 全職員が身体拘束の内容を理解するとともに身体拘束をしないケアを実践しているが、身体拘束排除に向けた研修を実施するまでには至っていない。 玄関は施錠せずチャイムを設置し、利用者の外出を察知した場合は職員が同行し、利用者の行動制限を行わないケアに取り組んでいる。 身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、やむを得ず身体拘束をする場合に備え同意書や経過観察記録、検討記録などの書類を整えている。	全職員が身体拘束をしないケアについて正しく理解するために定期的な研修を実施し、記録に残すことを期待する。 外部研修を受講した場合は伝達研修を行ったり復命書を回覧し、全職員で共有することを提案する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の指導により虐待をしないという理念は全職員の中に浸透している。利用者本位の考え方に基づいて支援を行っており支援の方法等は、ユニットごとに日常的に話し合い、利用者の支援を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料を使い、学ぶ機会を持っている。さらに、勉強する機会を設け、資料の整備を行う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み合わせを行い、同意して頂き、サインを頂いている。又、報酬や契約に改定、改正が行われた際には、家族に説明し同意を頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等の意見は、面会時や、病院受診の連絡時など常時聞けるようにしており、サービス向上に努めている。	利用者からは日常のふれ合いや会話の中から、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くよう努めている。 玄関に意見箱を設置しているが投函が無いほか、重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記しているが、意見や要望が出されることは無く、家族等の意見等を汲みあげるまでには至っていない。	家族等の意見や要望を汲みあげるためにはどのような工夫をしたらよいか、運営推進会議などで話し合うことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しい入居者の方が入居する前に、状況、情報をスタッフに伝え、また、毎月ユニットごとの会議を開き、意見交換をしている。	管理者は月1回開催する職員会議で職員の意見を聞く機会を設けているほか、日頃から職員の話聞くよう努めている。 職員がいつでも意見や提案を出せるよう、気付いたことはメモ用紙に記入して居間の壁面に設置されているボードに貼り付けることとしている。 職員から出た意見等は管理者会議で話し合ったり、運営母体に報告して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の環境に合わせ、勤務体制を組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて、支援を行っている。必要に応じて、外部研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループ内旅行などで親睦を深め、情報交換等を行いサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ず面談を行い、本人との信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安を受け止め、ホーム側の意向を説明し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの情報交換や、病院との連携を取り、支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の好み能力に応じた活動をその時の気分を考慮しながら一緒に行っている。また、入居者の方から学ぶこともあり、職員も良い刺激になっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事によっては、ご家族もお誘いし、本人と家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたり、地域の行事へ参加したり、近くをドライブしたりとしている。	職員は利用者の希望にそって空き家になっている自宅に行けるよう同行している。 利用者が希望する馴染みの場所に職員が同行できない場合は、家族等に利用者の思いを伝えている。 職員は利用者の知人や友人の来訪時にはお茶を出し、ゆっくり話ができるよう配慮するとともに、来訪者を玄関外まで見送り再来を促すなど、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を、スタッフは把握しており、入居者様が孤立しないよう場面の設定を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サマリーを入院先にお渡しし、情報の共有を図っている。亡くなった方の告別式参列等、つながりを大切にしているが、なかなか継続される家族はいない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時などに本人ご家族の希望や意向を聞き、希望に添えるようケアを行っている。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに日々の行動や会話、表情などから思いや意向の把握に努めている。 意思表示のできる利用者の場合は思いにそった支援をし、意思疎通が困難な利用者の場合は家族等から話を聞いたり、利用者とのスキンシップにより表情やしぐさなどから思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討している。 管理者は新人職員に利用者の生活歴や趣味、注意事項など最新の情報をまとめた資料を渡し、新人職員でも利用者の思いを汲み取った支援ができるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や、お気に入りの物を持参して頂き、生活環境の設定に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに記録し、心身状況を把握し、体調の変化等を把握できるように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各入居者について会議を行い、本人や家族の希望に沿って、介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、長期目標は6ヶ月毎、短期目標は3ヶ月毎に見直すとともに、1ヶ月に1回のユニット会議でモニタリングをしているが、利用者の心身の状態に変化が生じた場合に、随時見直すまでには至っていない。 来訪のない家族等から介護計画の確認を得るまでには至っていない。	利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直すことが望まれる。 来訪できない家族等の場合は、介護計画を送付して確認を得ることを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄等を記録し、スタッフ間で情報を共有し、ケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況にあった、外出に対応している。又、家族の状況に応じて通院介助も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科サービスを活用している。運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、情報交換をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様からのかかりつけ医の希望を大切にし、事業所の協力医との連携を取りながら支援している。	利用者や家族等が希望する医療機関での受診を支援している。 受診は家族等の付添いを基本としているが、家族等から依頼があった場合は職員が同行している。 受診後は家族等と情報交換を行い、結果を記録している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が同じ系列の特養の看護師や医療機関と連携を取り対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の状況に応じて、家族や医師と話し合う機会を持ち、早期退院を心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、事業所で出来ることを説明、必要に応じて新たな支援を検討し納得戴いた上で医師とも相談しながら推進している。	利用者や家族等の希望にそって終末期ケアや看取りケアを行う方針となっている。「看取りに関する指針」と同意書を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して書面で同意を得ているが、看取りに関するマニュアルを作成したり、職員研修を実施するまでには至っていない。 利用者の希望により、看取りを1回行っている。	看取りに関するマニュアルを作成するとともに、看取り介護の職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が上級救命講習を習得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の避難訓練、また、年2回消防署立ち会いのもと総合避難訓練を行い、地域の方の声をかけ、参加して頂いている。	年2回消防署立会いのもと夜間想定を含めた総合訓練を実施しているほか、2ヶ月に1回消防訓練と避難訓練を事業所独自に実施している。 避難訓練の実施記録はあるが、訓練で明らかになった課題や反省点を話し合うまでには至っていない。 スプリンクラーの初回テスト日に合わせて避難訓練と運営推進会議を行ったため、その時には近隣住民の参加が得られたが、全ての避難訓練に近隣住民の参加が得られるまでには至っていない。 災害時に備え米や乾パン、飲料水、プロパン用ガスコンロなどを備蓄している。	避難訓練で明らかになった課題を話し合うとともに、記録に残して次回の訓練に活かすことを期待する。 近隣住民や近隣にある企業に避難訓練への参加を呼びかけ、災害時の協力体制を築くことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声かけや対応の中で、誇りやプライバシーを損ねることがないように留意し、尊厳を大切にしている。	管理者と職員は利用者を尊敬するとともに、利用者に対する呼び方や言葉遣いなどに配慮し、一人ひとりの尊厳を大切に考えて対応している。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に鍵をかけて保管しているほか、各ユニットで使用している個人情報に関する書類は机の引き出しに保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情やしぐさから読み取ったり、常に本人に確認を取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はほぼ決まっているが、本人の状態や希望があればそれに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて希望を聞きながら対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や栄養バランスに配慮した食事の提供を行っている。	利用者は職員と一緒に食事の準備や配膳、下膳、食器洗いなど、できる範囲で役割を担っている。 年1回程度花見を兼ねて利用者の希望を取り入れた外食を実施している。 利用者の希望にそった行事食を取り入れたり、利用者が食べられない献立の場合は代替食を提供するなど、食事が楽しみなものとなるよう支援している。 職員は利用者の嚥下能力に合わせて介助をしたり、利用者と同じテーブルに着いて同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握し、1日に必要な水分・食事をバランスよく提供できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアはできているが、毎食後の口腔ケアは出来ていないこともあるので、今後の課題である。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握することに努めている。顔色・表情・しぐさを観察し声かけ誘導を行っている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。 職員による排泄の自立に向けた適切な支援により、入居時に紙パンツとパッドを使用していた利用者が布パンツ使用に改善した事例がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を管理栄養士の献立により取り入れられており、出来る限り体を動かし、便秘の改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に合わせて入浴時間や足浴、シャワー浴などを行っている。	入浴は週3回と決まっているが、利用者の希望や状況に合わせて毎日、いつでも入浴ができるよう支援している。 利用者が入浴を拒む場合は入浴の時間帯を変えたり、声かけする職員を替えて無理なく入浴ができるよう支援している。 脱衣所にトイレを設置しているほか、腰高の畳スペースを設け、利用者が安全に着替えができるよう工夫している。 柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れたり、利用者の希望にそって入浴剤を使用し、快適に入浴ができるよう支援している。 利用者の状態に合わせた入浴支援ができるよう、機械浴槽を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりそれぞれの生活習慣に合わせて心掛け、室温や光、音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、全職員が把握できるようにしている。変更があれば、アセスメントに記録している。服薬は、きちんと服薬できているか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どのような場面において利用者一人ひとりがその力を発揮できるか考えながらかわりを持つように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の買い物や散歩などの希望には随時応え、家族からの希望があった際には、その都度支援を行っている。	利用者が広い敷地内を自由に散歩ができるよう支援しているほか、敷地外の散歩や日用品の買い物には職員が同行し、日常的に戸外に出られるよう支援している。 職員は利用者が入居前と同じように初詣や季節の花見、銭湯、公民館の催事などに出かけられるよう支援し、生活を楽しみながら地域の人々と交流ができるよう外出支援に取り組んでいる。 利用者が希望する場所に職員が同行できない場合は、利用者の思いを家族等に伝え、家族等と一緒に外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族にも説明しているが、自己管理の出来る入所者は少量のお金を所持し、施設内自動販売機を利用している。又、自己管理が難しい利用者も買い物に同行するなど対応支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際には、どこに電話したいのか訴えを聞き、その都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事に合わせた飾りつけをしている。	玄関には雛段飾りなど、季節に合わせた飾り物を置いている。 居間兼食堂は広く大きな窓が設置され、カーテンで陽光を調節して居心地のよい空間となっている。 トイレや風呂を含め共用空間は清潔に保たれている。 各ユニットの廊下や居間兼食堂には利用者個人の作品や、利用者と職員と一緒に制作したユニット名にちなんだ花を描いたちぎり絵の大作が飾られている。 庭で飼育している犬とふれ合うことができ、利用者の癒しになっている。 玄関に飲料水の自動販売機を設置し、利用者が自由に購入できるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置きゆっくりくつろげるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた馴染みのものを持参していただいている。また、本人の好みに応じて、日用品の買い物に出かけている。	居室には広いクローゼットやベッド、整理筆筒、エアコンが備え付けられている。 利用者は家族等の来訪時にゆっくり話ができるよう、居室に使い慣れたテーブルや椅子を持ち込んでいるほか、テレビや時計、家族の写真、人形、日用品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。 職員はエアコンの温度設定を利用者一人ひとりの好みに合わせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、傾きや体の痛みのある方は、クッションなどを利用している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所 グループホーム 玉里の里

作成日 平成25年5月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直すことが望まれる。来訪出来ない家族等の場合は、介護計画を送付して確認を得ることを期待する。	介護認定更新後のほか6ヵ月毎にかかわらず、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画を見直します。又、遠方にて来訪が難しい家族に対しては、電話連絡の後、郵送にて確認対応いたします。	介護認定に伴う情報提供書を基に定期的介護計画作成の他、入院後退院等心身に変化が生じたときは速やかに介護計画を見直します。	平成25年度から実施します
2	10	家族等の意見や要望を汲み上げるためにはどのような工夫をしたら良いか、運営推進会議等で話し合うことを期待する。	定期的に、家族アンケートを実施したい。	アンケートの返送先が入所施設であると回答を遠慮してしまうと思われるため、返送先を法人事務局としてみたい。	平成25年度から実施します
3	4	家族等に送付している事業所便りに運営推進会議の日程を記載し、家族等に運営推進会議への参加を呼びかけることを期待する。	事業所便りに運営推進会議日程や過去の議題等を掲載し、順次交替で参加いただけるよう依頼します。	参加可能な家族に限られるため、期間にゆとりを持った参加依頼をします。	平成25年度から実施します
4	6	全職員が身体拘束をしないケアについて正しく理解する為に定期的な研修を実施し、記録に残すことを期待する。外部研修を受講した場合は伝達研修を行ったり復命書を回覧し、全職員で共有することを提案する。	身体拘束については運営推進会議でも取り上げましたが、各棟毎の資料回覧読みあわせで終わってしまい記録に残しませんでした。今後は記録を残すようにします。外部研修時には復命書の回覧を徹底します。	極力、外部研修に参加いたします	平成25年度から実施します
5	35	避難訓練で明らかになった課題を話し合うとともに、記録に残して次回の訓練に生かすことを期待する。近隣住民や近隣にある企業に避難訓練への参加を呼びかけ、災害時に協力体制を築くことを期待する。	避難訓練後の講評の記録は有るものの、口頭での伝達になってしまい全員の共有に至りませんでした。今後は記録回覧し情報の共有を図ります。地域住民への協力体制も検討いたします。	非常通報装置や館内放送、スプリンクラー等の操作手順等を文書化し全員に熟識させます。地域住民とのコミュニケーションを図ることが先決であり、施設行事等への来訪を促し地域密着を図ります。	平成25年度から実施します
6	33	看取りに関するマニュアルを作成するとともに、看取り介護の職員研修を実施することを期待する。	形式的な契約書はあるものの、内容が不充分との指摘あり、内容充実のためには主治医や病院との関係もあり早期対応は難しい。関連施設にも協力を仰ぎ看取り介護の職員研修を実施したい。	他施設での作成マニュアル等内容を確認勉強したい。	平成25年度から勉強会を実施します

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。